

## 平成30年度第3回学校教育審議会における意見の整理

平成30年度第3回学校教育審議会において、「千葉市学校施設長寿命化基本計画(素案)」に対していただきました主な意見・感想等を、以下のとおり整理しました。なお、整理にあたって、文章の分割や簡略化、同種の意見の統合等を行っています。

No.	意見の内容
1	どのような子どもを育てたいのかという市としてのビジョンや気持ち等が見えにくい。財政面だけを見ているように受け取ることができてしまうため、育成したい人物像やビジョン等をふまえたものとすべき。
2	老朽化対策と並行して、コスト削減や財源確保に向けた取組みを積極的に考えていく必要があるだろう。
3	千葉市の子どもの育成像や必要とされる教育環境の変化等もふまえて、絶えず計画を見直していくということも必要
4	20年、40年・・・という区切りを付けて、改修を行っていくという考え方が、この計画の良いポイントである。
5	子どもたちにとってのより良い環境づくりのため、「アップデート改修」の内容については、時代に応じた見直しが必要である。記載されている内容は、現時点での例示とし、実際の整備内容については、新たな視点でその都度検討してほしい。
6	今後の学校施設整備にあたって、耐用年数という考え方だけでなく、デザイン等の様々な要素も含めて、その都度検討を行ってほしい。
7	全体の方針として、施設総量を削減していくという考え方は重要。一方で、児童生徒数に関わらず必要となる施設もあるほか、教育をより充実させていくということを考えると、児童生徒数の減少に応じて施設総量を一律に削減するというわけにはいかないだろう。
8	今後の児童生徒数の減少を踏まえると、これまでどおりに学校施設を保有し続けることは現実的ではなく、学校適正配置の取組みを加速化させるしかない。
9	エアコンの整備や耐震化等を全学校に実施していくことは重要だが、廃校となるような学校にまでこれらを実施し、その後すぐに解体というようなことになると、無駄になってしまう。
10	「長寿命化基本計画」は全体の計画としては良いと思うが、平等性を保ちつつ地域特性にあわせて対応する可能性があるという旨を記載しておいてもよい。複合化や施設総量削減に向けた取組みなどについて、様々な選択肢があるが、これらは地域によって適否が異なるはずであり、地域毎の特性を分析しながら、それぞれにあわせたビジョンを考えていくべき。
11	学校適正配置の取組みや、他の施設との複合化などについて、行政間の縦割りが弊害となり、横のつながりをもって進めていくということが、不足していると感じる。
12	個々の学校施設の状況を具体的に把握したうえで、改修や改築のタイミングも臨機応変に入れ替えていくなど、適切に対応していく必要があると思う。
13	20年周期での大規模な改修に加えて、日常的な点検や修繕等を実施していくことも重要。これらを適切に実施していくことが、長寿命化の前提にはあると思う。
14	学校間で足りない部分を補完し合うなどし、学校どうしの交流を深めておくことが、将来のスムーズな統合の協議につながっていくのではないかと。
15	地域の特性をふまえながら、学校だけでなく他の公共施設や民間施設も含めた分析・マッピングを行うなどし、具体的な計画を作っていく必要もあると思う。
16	将来費用の増大という現実と直面していることについて、情報発信を積極的に行い、関係者の理解を得るべきである。